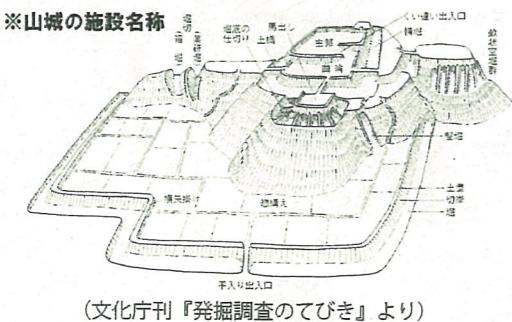


3 平成 29 年度 発掘調査の成果

- ☆主郭区画 B とする地区では柱穴と思われる小穴が確認されました《写真 1》
- ☆主郭区画 A を囲む石塁の東側（区画 B 側）と南側（区画 C 側）を調査したところ、80cm から 1m の高さの石積みを確認しました《写真 2・写真 3》
⇒主郭のなかでも区画 A は、標高約 512m あり、最も高い平場であるとともに、石を積んだ石塁で区画するなど重要な場所であったと思われます。
- ☆主郭区画 A の石組が、区画 A を更に区画しています《写真 4》。
- ☆主郭と曲輪 2 の間の堀切 2 を調査しました。堀底は平らで、固く締まっており、「箱堀」と呼ばれる形状と見られます。
堀底上には炭化したコメ《写真 5》が、炭化物・焼土・土と一緒に堆積していました。出土した層位から戦国時代のものと推定されます。
⇒通常、山城跡では土壤の酸性度が高く、コメのような有機物が残ることは稀です。柏木城跡ではコメが炭化していたため残ったものと思われます。
- ☆曲輪 3 では、柱穴とみられる小穴のほか、溝、焼土、硬化面などを確認しました。巨大な岩石が埋もれており、その上が後世の石捨て場となっていました《写真 6》。

蘆名氏関連の山城は会津に多数残されていますが、後に伊達氏・蒲生氏・上杉氏などに改修されているといわれています。柏木城跡は、そうした改修はないと想定されることから蘆名氏本来の築城技術、石積みの技術、築城の考え方を示す貴重な遺跡であり、天正期後半南東北の城郭における指標となりうる点で重要な史跡であると評価できます。



※「築石」（石垣の積み石）の内側に裏込め石があるものを「石垣」、ないものを「石積み」という見解にしたがい、柏木城跡のものは、現在、「石積み」と呼んでいます。

北塩原村教育委員会 《平成 29 年 10 月 22 日発行》
〒966-0402 北塩原村大字大塩字下六郎屋敷 2134 番地
電話 0241-23-5236

《柏木城跡は私有地です。見学の際はマナーを守りましょう。》

平成 29 年度 柏木城跡 発掘調査 現地説明会

1 柏木城跡とは・・・

柏木城は戦国時代の終わり頃、会津の蘆名氏が築城した山城で、米沢の伊達氏による会津侵攻を防ぐために造られたとされています。天正 13 年（1585）の伊達政宗の桧原略取からはじまった会津侵攻の際、大塹に城があったという記述があり（政宗記）、今からおよそ 430 年前頃には存在していたとみられます。

城内には多彩な「石積み」による施設が残されているのが特徴で、中心部の出入口（虎口）や土塁の壁、区画施設など、多くの場所に石積みの遺構がみられます。



2 発掘調査の目的

北塩原村では、村内に多数残されている戦国期の城館跡や江戸時代の米沢街道、鉱山跡などの歴史的な遺跡群を、将来にわたって適切に保存・整備・活用していくために、平成 20 年度から有識者による検討委員会を設け遺跡の検討や活用への助言を得てきました。

平成 26 年度からは、柏木城跡の内容をより詳しく調べるために、北塩原村城館等保存・整備・活用検討委員会のもと、地権者の方々や地元の皆様のご理解とご協力を得て発掘調査をはじめました。発掘調査は今年で 4 年目となります。

柏木城跡は現在、北塩原村指定史跡です。村では将来的に国の史跡指定を目指しており、指定に向けて、文化庁記念物課・福島県教育委員会文化財課のご指導も受けています。

平成 29 年度 現地説明会資料 柏木城跡の発掘調査

戦国時代会津蘆名氏“石造り”の山城!!

